

三条市地域公共交通計画 実施状況【令和7年度】

I 日常生活に溶け込む既存の公共交通の磨き上げ		令和6年度までの実施状況	令和7年度実施状況	今後の取組
デマンド交通「ひめさゆり」、循環バス「ぐるっとさん」の利便性の向上				
No.1	AIオンデマンド交通導入とデマンド交通の全日運行	利用者数：56,920人 (うちAIデマンド利用者12,112人) (令和5年度) 利用者数：56,354人 (うちAIデマンド利用者31,096人) (令和6年度)	利用者数：54,460人 (うちAIデマンド利用者30,596人)	前年度からは約1,900人の微減となっているが、下記No.2のほか更なる取組を通じて利用促進を図る。
No.2	多用者に対する負担軽減策の検討	AIオンデマンド交通の利用料金の一部改定 (LINE予約の利用料金引き下げや学割料金の導入)を検討する。 (令和5年度) AIオンデマンド交通の利用料金の一部改定 (LINE予約の利用料金引き下げや学割料金の導入)を行った。 (令和6年度)	おでかけパスの推進(周知、特典の対象店舗の拡充)を行った。	今後も必要に応じて、多用者に対する負担軽減策を検討する。
No.3	デマンド交通の新規利用者層の獲得や利用促進に向けた出張講座等の実施	65か所で実施(令和6年度) 41か所で実施(令和5年度)	15か所で実施	自治会へ停留所要望の聞き取り、イベント参加によるAIオンデマンド交通の利用者向け説明会の実施などを行った。 今後も引き続き事務局が説明会等に赴き、制度の周知に努める。
No.4	循環バスぐるっとさんのキャッシュレス決済導入	キャッシュレス決済(PayPay)を導入 (令和4年度)	令和8年3月に、タッチ決済(クレジットカード)を導入した。	引き続きキャッシュレス決済(PayPay)を継続し、利便性の向上に努める。
No.5	デマンド交通おでかけバス購入拡大	360人(令和5年度) 406人(令和6年度)	370人	令和7年度は、運転免許証返納時に97人に対しておでかけバスを無料交付した。今後も引き続き、更なる制度の周知を図る。
No.6	デマンド交通おでかけバスの協賛店の拡大	55店舗(令和5年度) 54店舗(令和6年度)	引き続き市内店舗に対し協力を募集したものの、店舗数の拡大にはつながらなかった。 54店舗	上記No.5のおでかけバスの利用が進み、それを受けて協賛店も拡大できるよう引き続き協賛店を募集する。
No.7	バス待合環境の整備	地域公共交通の結節点である東三条駅前のバス待合所を整備。(令和5年度) 隣接する東三条駅前駐車場にて、キッチンカーの出店等を行い、場の魅力向上に努めた。 (令和6年度)	東三条駅前バス待合所にて設置したデジタルサイネージを活用し、公共交通情報や観光情報を発信した。	地域公共交通の結節点である東三条駅前付近や他の待合環境の整備を検討する。

三条市地域公共交通計画 実施状況【令和7年度】

Ⅱ 将来にわたり持続可能な地域公共交通の基盤整備		現状値	令和7年度実施状況	今後の取組
事業者生産性・行政負担額の最適化及びバス路線の再編				
No.8	生活交通路線の見直しの検討	路線バス利用者数 利用者数 142,396人（R4.10～R5.9） 利用者数 132,478人（R5.10～R6.9）	利用者数 133,559人（R6.10～R7.9）	令和7年度からは加茂線を短縮し、保内地区までの路線とした。また福沢線及び大面線を令和7年3月末で廃止とした。今後も事業の効率化と利用促進を図る。
No.9	地域主体のコミュニティバス拡大の検討 【中間目標値：1地区、最終目標値：2地区】	1地区でコミュニティバスを運行（令和5年度） 新たに導入したい自治会からの問合せなどはなかった。（令和6年度）	新たに導入したい自治会からの問合せなどはなかった。	過去に照会のあった自治会も、運転員の確保と燃料代等の運行費の捻出が困難との理由で実現に至らないことがあった。当協議会として、今後も自治体から問合せ等があった場合は、地域のコミュニティバス導入支援に努めていく。
No.10	高校生通学ライナーバスの利用促進	高校生通学ライナーバス利用者数 4,774人（令和5年度） 5,426人（令和6年度）	市内全高校生及び周辺の大崎学園並びに下田中学校卒業生にチラシを配布した。 利用者数：4,711人	更なる利用促進を図るため、通学でバスを利用する機会の多い市内高校の在学学生にチラシを配布するなど周知に努める。
No.11	鉄道の運行ダイヤ見直しの要望	JRへの要望を行った。（令和6年度）	JRへの要望を行った。	関係者の意見を踏まえ、引き続き要望を行う。
Ⅲ 最新技術の活用等による若年層や観光客を取り込む交通機能の充実				
まちなか、下田地域における二次交通の充実				
No.12	八木ヶ鼻温泉線の見直しの検討	下田地区への路線バス利用者数 58,839人（令和5年度） 46,401人（令和6年度） ※燕三条・下田 Outdoor Liner（アウトドアライナー）は令和6年12月末をもって実証運行終了	下田地区への路線バス利用者数 58,403人	下田地域内の住民や観光客にとって利便性の高い公共交通のあり方について、スクールバスの活用を含め検討する。
No.13	送迎バスを活用したMaaS実証と観光企画の検討	三条・下田 Outdoor Liner（アウトドアライナー）の実証運行終了。（令和6年度）	令和6年度中に実証運行を終了した三条・下田 Outdoor Liner（アウトドアライナー）の燕三条駅19時発・長沢駅到着の便は、令和7年度から越後交通の自主路線バスとして運行を継続した。	
No.14	八十里越開通後の只見町方面の公共交通機関の運行の検討	下田地区の地域交通資源の有効活用に関する調査を実施した。（令和5年度） 八十里越開通後の鉄道需要を鉄道事業者を確認した。（令和6年度）	北陸信越運輸局及び営業戦略室と観光二次交通の在り方について意見交換を行った。	